

2011-2012 ウィンターシーズン。スキーオリエンテーリングの日本チャンピオンが決まる。

平成 23 年度
全日本スキーオリエンテーリング大会
2012年3月24日-25日
ルスツリゾート(北海道)



挑戦まっているぜ！
(2011年野沢温泉合宿の写真)

第一回大会

日本オリエンテーリング協会の主催でスキーオリエンテーリング種目の日本選手権者を決めるのは今回が初めて。今回の大会の勝者は日本オリエンテーリング協会(JOA)公認の「日本チャンピオン」を名乗る。

今までのチャンピオン戦

日本スキー0研究会が主催するJ-CUP大会が今までに何度も開催されてきた。これが今までの事実上のチャンピオン戦だったし、実際に選手もJ-CUPで勝つことを目標にしてきた競技会だった。

だがJ-CUP大会はJOAとは直接関係のない競技会でしかない。この成績をJOAが公認することはなく、JOA公認の日本チャンピオンと呼ばれることはなかった。

日本チャンピオンの必要性

しかし平成23年度のJOAの事業計画にはスキーオリエンテーリング全日本大会が盛り込まれ、実施が予定されている。これは関係者がスキーオリエンテーリングの日本選手権の必要性を強く感じていることによる。

ご存知のようにIOFが推進するオリエンテーリングは4つカテゴリがある。フットオリエンテーリング、トレイルオリエンテーリング、スキーオリエンテーリング、マウンテンバイクオリエンテーリング(MTBO)だ。

このうちJOAによる2010年度の日本選手権大会が開催されたのはフット0とトレイル0のみ。スキー0とMTBOは日本選手権者というものは存在していない。

今まで愛好家中心の世界であったスキー0。愛好家だけを対象とするうちは日本選手権など無くとも良かった。しかしスキー0の活動は愛好家を広げ、異競技とも交流を広げつつある。そんな中で競技スポーツでは普通にある「日本選手権」の必要性を強く感じている。

きっかけはアジア冬季大会

2011年2月にカザフスタンで行われたアジア冬季大会。ここでスキーオリエンテーリングが正式種目となった。日本もこれに参加したかったが、日本からの参加の壁は高かった。日本から正式参加した他種目は、普通に競技スポーツであり、普通に日本選手権者が居る。彼らと同じように普通の競技スポーツであろうとすれば、日本選手権大会があってしかるべきなのだ。

例えば、カザフスタンに裁定委員として招待された堀江守弘。

彼は日本国内において当代一のスキーオリエンテーリング競技者であることは間違いない。だが日本選手権者ではない。彼を外国の方に紹介するのに「日本チャンピオン」の言葉を使うことに私はいささかの抵抗があった。

それなら彼を日本選手権者と公認する競技会を開催すればよいではないか。それが普通のスポーツというものだ。

私が遠いカザフスタンに行って得たものの中で、最も大きなものが「スキーオリエンテーリング日本選手権大会の必要性」というあまりにも当たり前な結果だった。



2011年2月 アジア冬季大会(カザフスタン)に裁定委員として参加した堀江守弘。メダルを運ぶ民族衣装の係員からアジア大会のメダルに触らせてもらった。そこをバチリ。

きたれ挑戦者

今までスキー0の発展に多大な貢献をしたJ-CUP大会の実績を踏まえつつ、今度のウィンターシーズンの締めを決める初代日本チャンピオン。今までの無冠の帝王・堀江守弘が栄冠を勝ち取るのか。それとも誰かがその座を射止めるのか。女子では圧倒的な実力を誇る酒井佳子がどうなるのか。

道場破り歓迎。異競技参入者歓迎。日本選手権目指して多くのかたの挑戦を待っている。

(木村佳司)

